

ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査結果報告書

【概要版】

1 調査概要

(1)調査の目的

平成 28 年4月に女性活躍推進法が全面施行となり、女性の活躍推進の機運は醸成されてきた。一方で、非正規雇用労働者の約7割が女性であるなど、不安定な雇用形態の女性が多い。

そんな中、令和2年には新型コロナウイルス感染症が拡大し、人々の生活に多大な影響を及ぼした。内閣府の「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」では雇止め等により女性就業者が減少したことやDVや性暴力が増加・深刻化したこと、予期せぬ妊娠の増加が懸念されるとの報告がなされており、性別に起因するさまざまな課題が浮き彫りとなった。

一方で、本市の男女平等参画推進センターにおける「女性のための総合相談」の相談には、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少したことによる将来への不安や生活環境の変化によるストレスといった相談が寄せられたが、本調査によって、相談には至っていない「声なき声」を拾い、新型コロナウイルス感染症拡大がもたらした女性の生活・就労への影響や新しい日常において女性が抱える課題を把握する。さらには、非正規雇用で働く子どもを持たないシングル女性の実態を把握し、新たな男女平等参画施策を検討する参考とする。

(2)調査概要

① 本調査

調 査 対 象：名古屋市内在住の 20～59 歳の女性 20,000 人を無作為抽出

調 査 方 法：調査の案内を郵送により配布、インターネット回答

調査実施時期：令和3年7月 30 日(金)～8月 17 日(火)

配布・回収状況：配布数 20,000 件／有効回収数 5,254 件／有効回収率 26.3%

② 追加調査

調 査 対 象：民間調査会社に登録している名古屋市内在住、20～59 歳の非正規職で働く、子どもを持たない
シングルの女性

調 査 方 法：民間調査会社の登録者で条件にあてはまる人 10,000 人に調査の案内をメールにより配布、250
人がインターネット回答

調査実施時期：令和3年9月 13 日(月)～9月 16 日(木)

※今回の調査の主要な対象である非正規職・子どもを持たないシングルの方は、全体では 5.5%(288 人)であった。

非正規職・子どもを持たないシングルの方の分析は、追加調査で得られた 250 件を合わせた 538 件を母数として行っている。

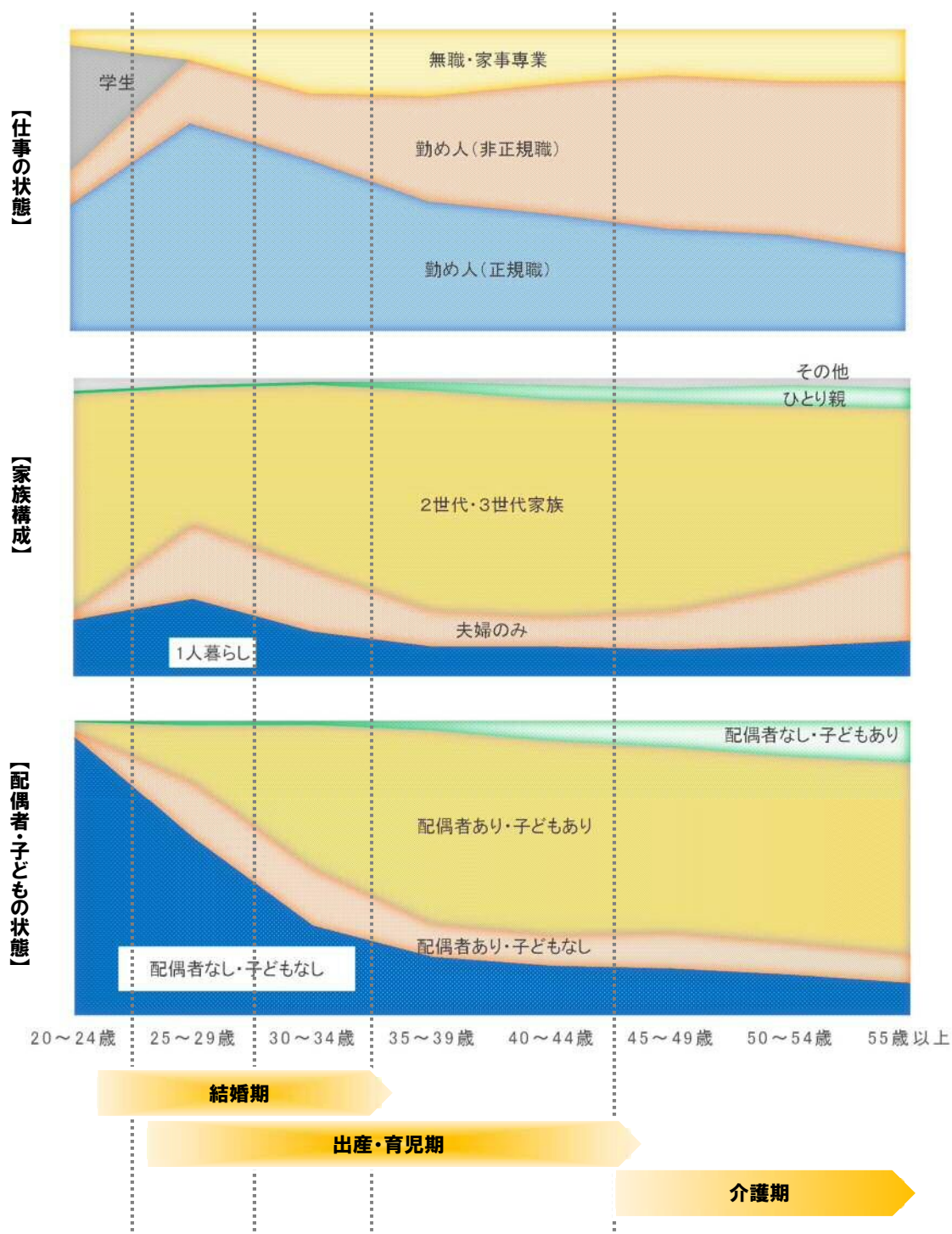
2 名古屋市の女性のライフステージ

今回の調査結果から名古屋市の女性のライフステージの状況をまとめてみる。仕事の状態は、いわゆるM字カーブと言われるように、子育て期の25～34歳の「勤め人」の比率はやや低く、その後35歳以上で高くなる傾向はある。M字の底は浅いが、その内訳は大きく異なっている。「勤め人(正規職)」は25～29歳をピークに年齢が上がるにつれて減少し続け、代わりに「勤め人(非正規職)」の比率が上がることによって推移している。

家族の状況は、2世代・3世代家族が大半を占め、1人暮らしは、25～29歳が最も高く、35歳以上では、ほぼ一定の比率で推移している。

配偶者と子どもの状況をみると、「配偶者なし・子どもなし」は年齢が上がるにつれて比率が下がっているものの、年齢が上がっても比率が一定あることがわかる。

図表 女性のライフステージの状況（仕事・家族・配偶者と子ども）



(1) 調査対象者の属性及び

非正規職・子どもを持たないシングルの方の概況

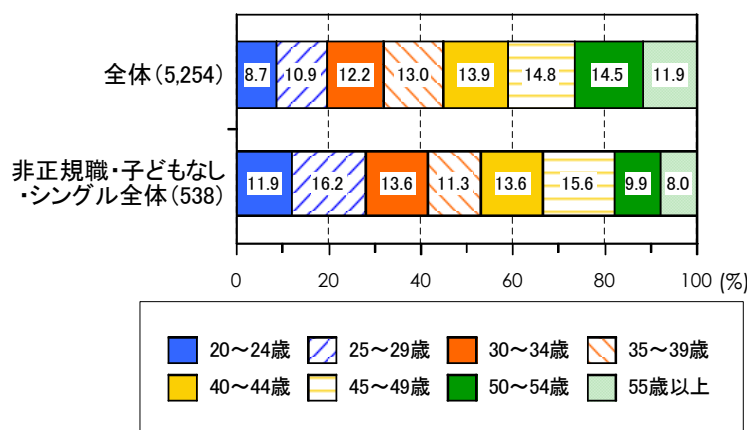
調査対象者の年齢は、20 歳代は 20%、30 歳代 25%、40 歳代 29%、50 歳代 26%である。

調査対象者の配偶者と子どもの状況は、「配偶者あり・子どもあり」は 52%、「配偶者なし・子どもなし」は 29%である。

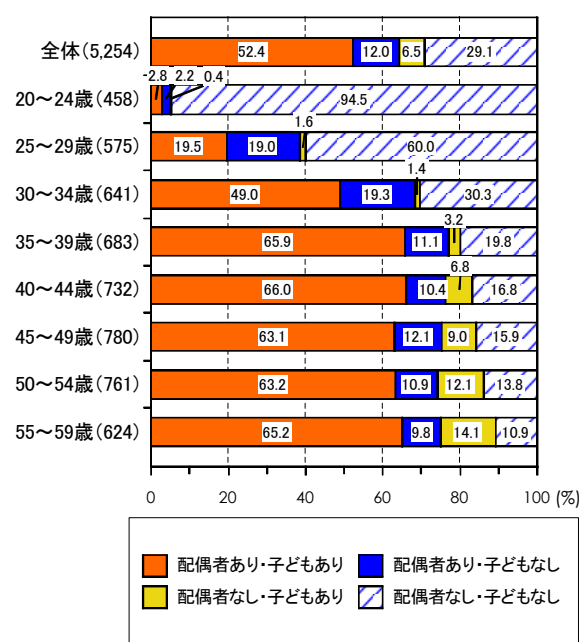
20 歳代後半から 30 歳代前半に結婚、出産を経て変化していることがわかる。

調査対象者の調査時点での仕事の状態は、「勤め人(正規職)」が 42%、「勤め人(非正規職)」が 31%、「無職・家事専業」が 16%である。「勤め人(正規職)」は 25～29 歳が最も高く、年齢が上がるにしたがって「勤め人(非正規職)」が高くなる。

図表：年齢



図表：配偶者・パートナーの有無

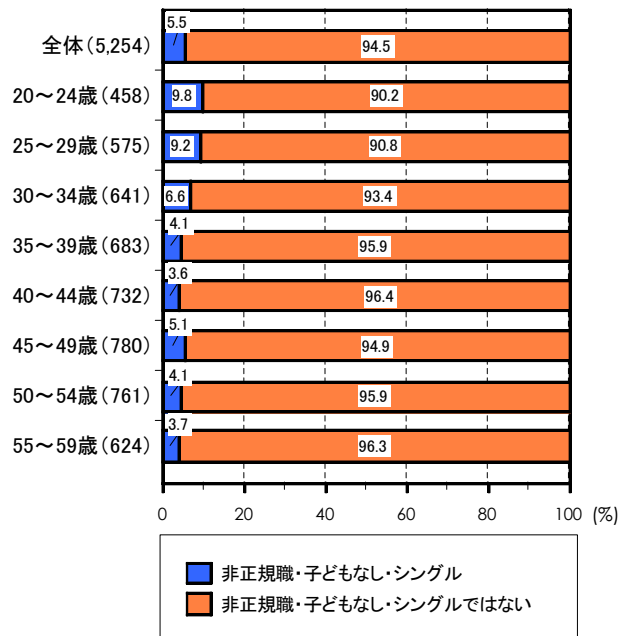


【非正規職・子どもを持たない・シングル】

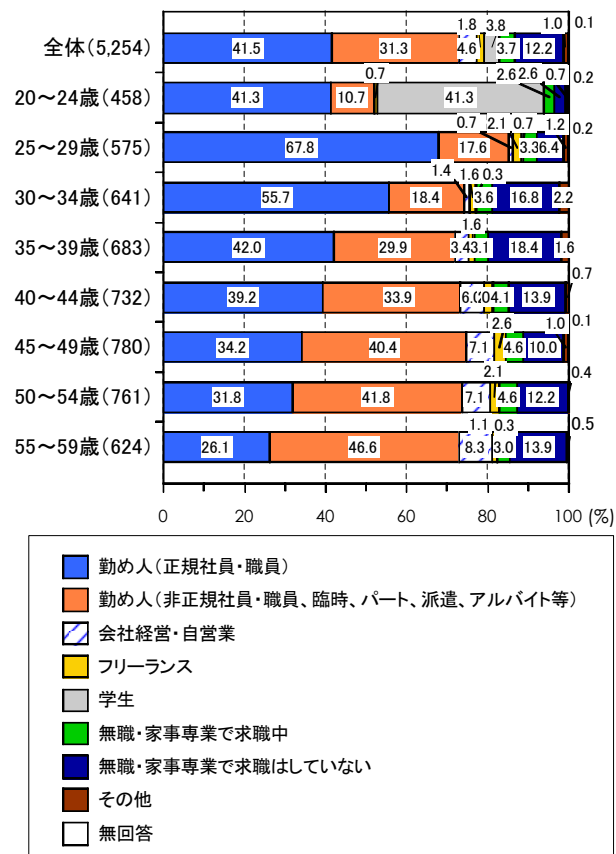
非正規雇用で働く子どもを持たないシングル女性とは、現在配偶者がおらず、子どもを持たない人であり、仕事の状態が、新型コロナウイルス感染症拡大以前より非正規職で働き続ける人、新型コロナウイルス感染症拡大期の仕事の変化により非正規職に就いた人、または以前は非正規職で、現在は無職で求職中の人と定義している。

全体に比べて、20 歳代の比率が高く、50 歳代が低い。

図表：非正規職・子どもを持たない・シングルの割合



図表：新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態



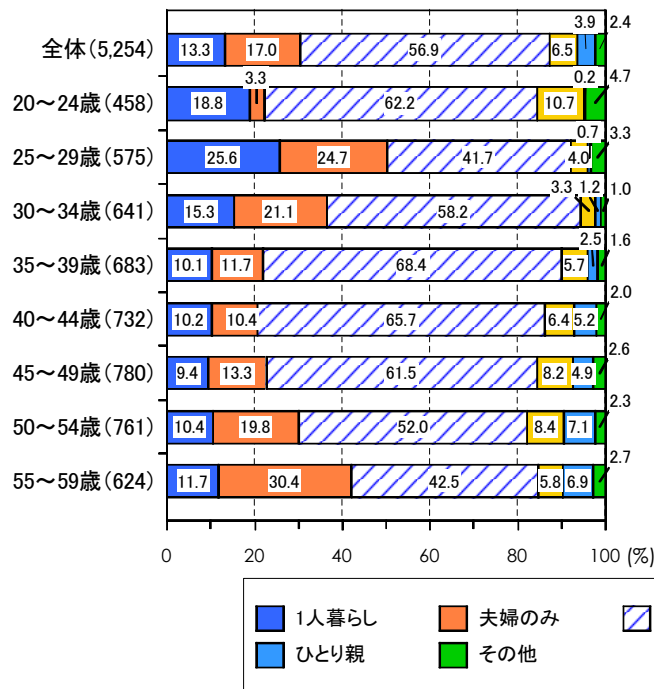
(2) 家族の状況

「2世代(核家族)」が57%と最も高く、「夫婦のみ」17%、「1人暮らし」13%である。「1人暮らし」は25～29歳は26%と最も高く、30歳以上では10%前後である。

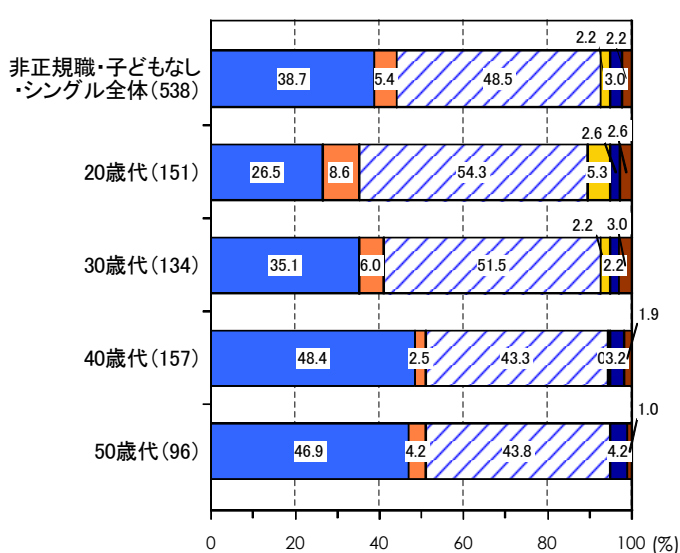
【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「2世代(核家族)」が最も高く、「1人暮らし」も39%と全体に比べて高い。40代以上では「1人暮らし」が最も高くなる。

図表：家族の状況（調査対象者）



図表：家族の状況（非正規職・子どもを持たない・シングル）



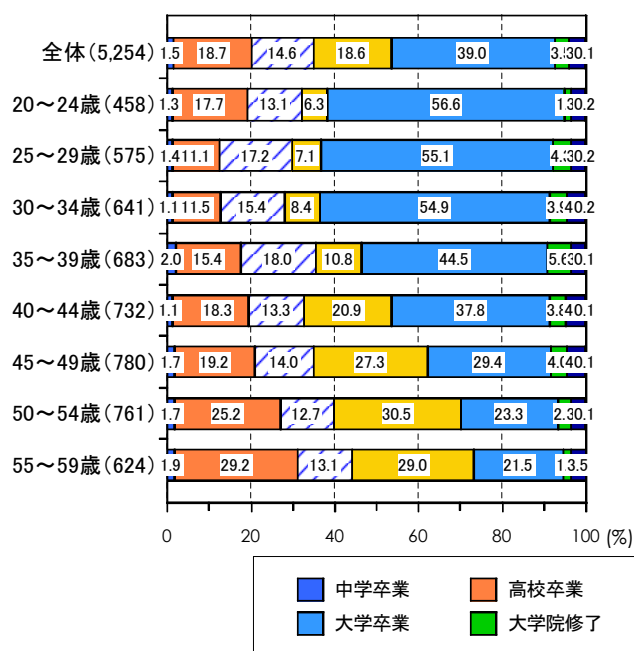
(3) 学歴

回答者の最終学歴は、「大学卒業」が39%と最も高く、「高校卒業」19%、「短大・高専卒業」19%である。年齢によって学歴の状況は異なる。「大学卒業」は20～34歳までは55%前後を占め、最も高く、年齢が上がるにしたがって低くなり、「短大・高専卒業」「高校卒業」は年齢が上がるにしたがって高い傾向がある。

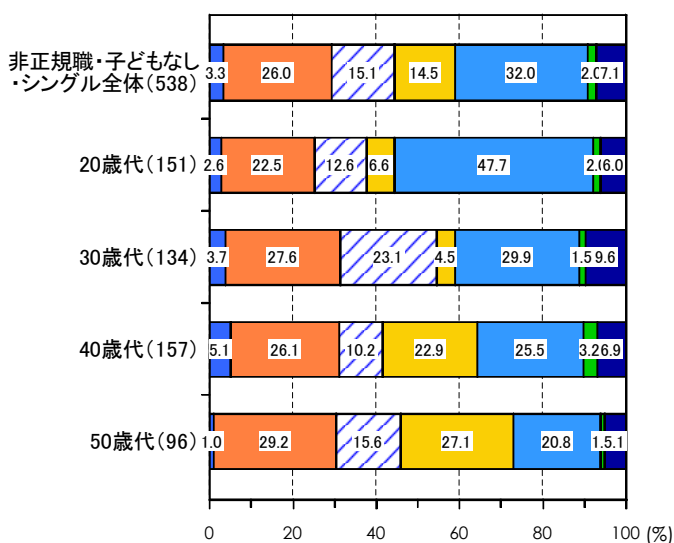
【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「大学卒業」32%、「高校卒業」26%と、全体に比べて「大学卒業」が低く、「高校卒業」の比率が高い。30歳代では「専門学校卒業」の比率も高い。

図表：学歴（調査対象者）



図表：学歴（非正規職・子どもを持たない・シングル）



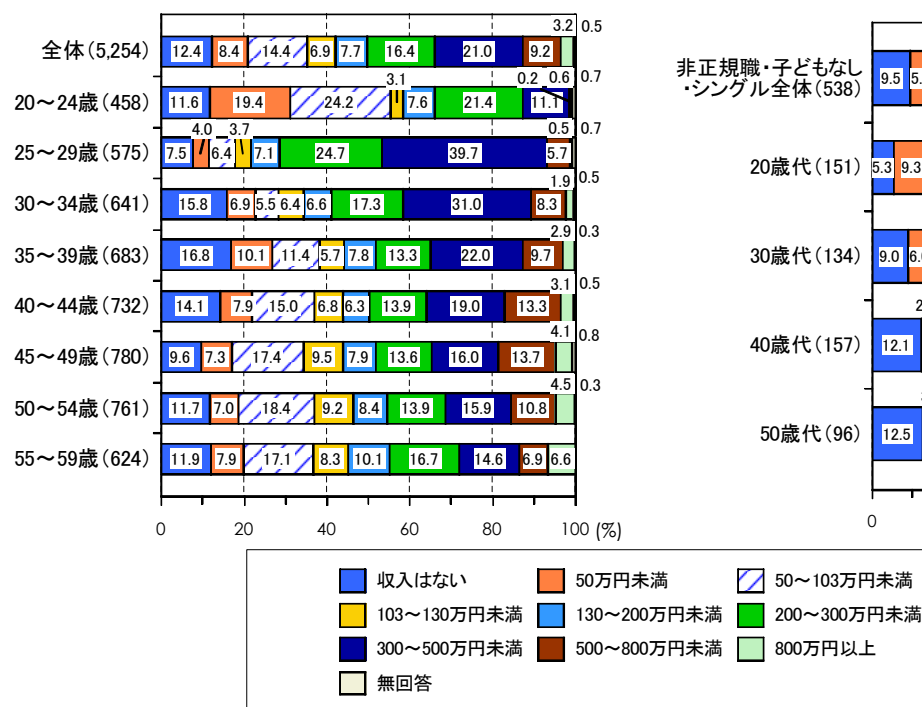
(4)年収

「300～500 万円未満」が 21%と最も高いが、130 万円までは 42%、300 万円までは 66%を占める。

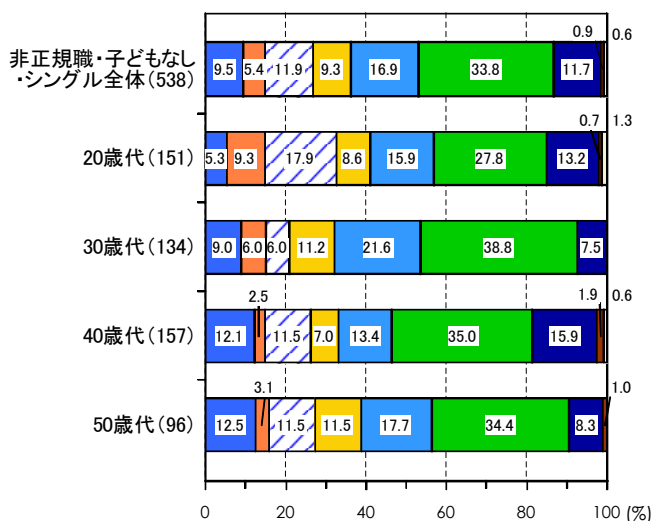
【非正規職・子どもを持たない・シングル】

非正規職・子どもなし・単身の回答者は 300 万円までが 86%を占める。

図表：年収（調査対象者）



図表：年収（非正規職・子どもを持たない・シングル）



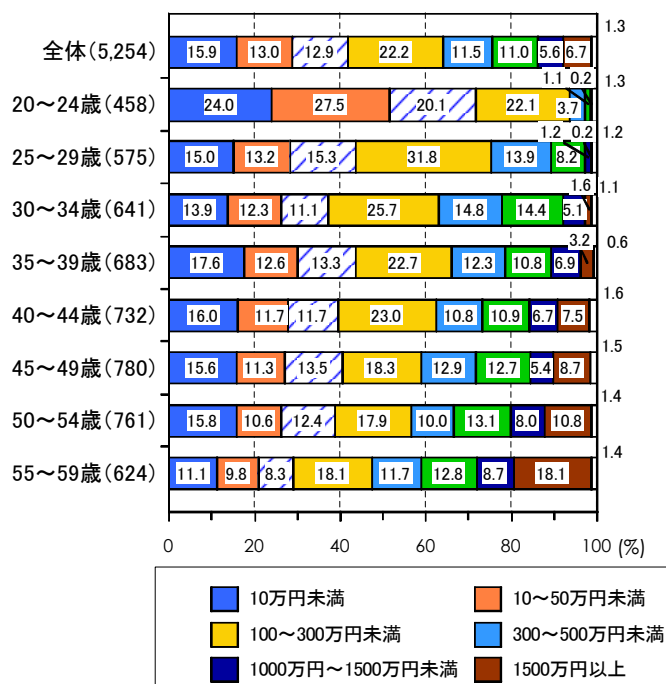
(5)貯蓄

「100～300 万円未満」が 22%と最も高いが、50 万円未満が 29%である。年齢が上がるにしたがって貯蓄額が高い層が増える。

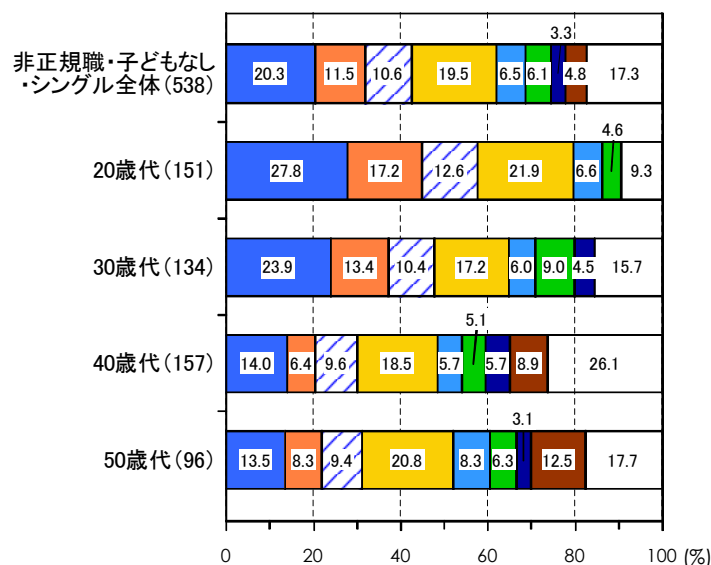
【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「10 万円未満」が 20%と最も高く、50 万円未満が 32%と貯蓄額の低い人の割合が高い。

図表：貯蓄（調査対象者）



図表：貯蓄（非正規職・子どもを持たない・シングル）



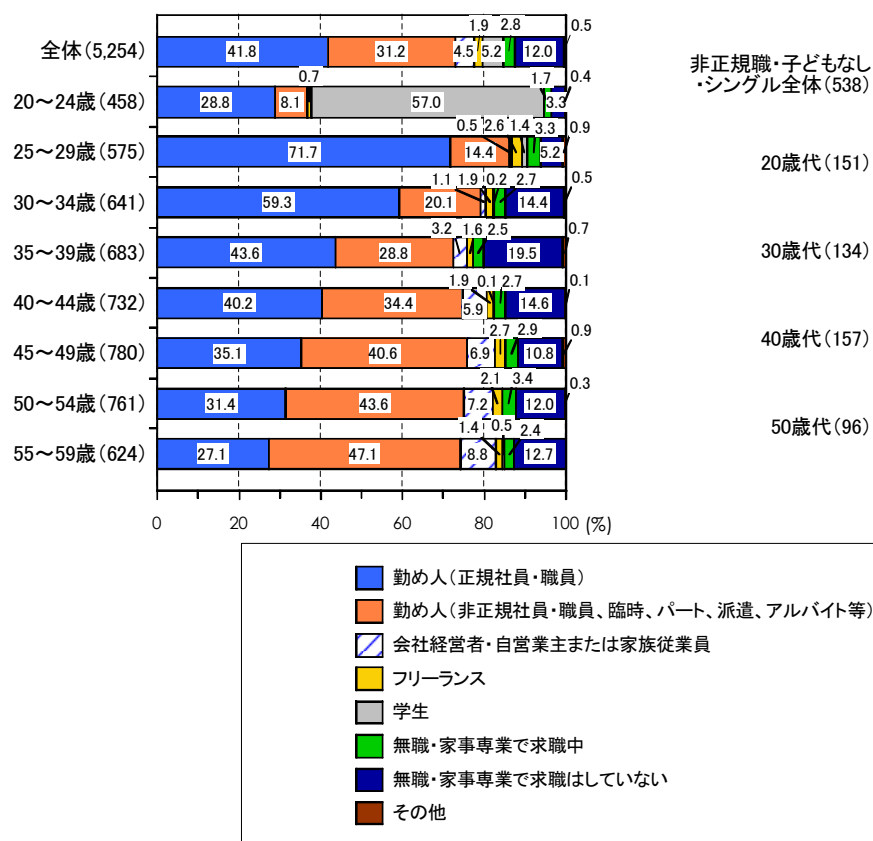
3 新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の状況について

コロナ前の仕事の状態は、「勤め人(正規社員・職員)」が 42%と最も高く、「勤め人(非正規社員等)」31%、「無職で求職していない」12%である。新型コロナウイルス感染症拡大時期に仕事の状態が「変化した」は 25%。変化した後の仕事の状態は、「勤め人(非正規社員等)」が 38%と最も高く、「勤め人(正規社員・職員)」29%である。

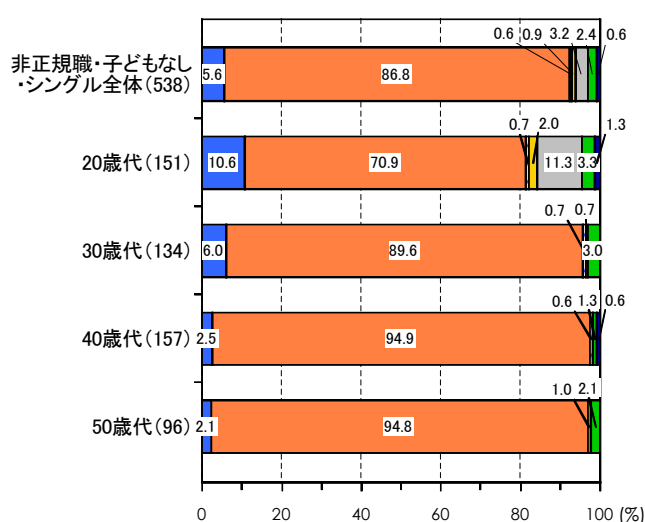
【非正規職・子どもを持たない・シングル】

コロナ以前から非正規職が 87%を占め、コロナ時期に変化があった人が 45%と半数近くになる。全体の 25%と比べると、20 ポイント以上も高く、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けていることがわかる。

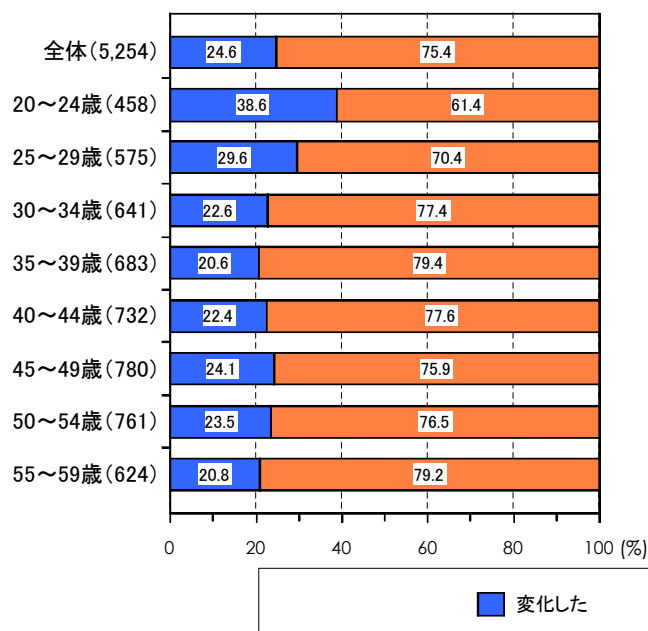
図表：新型コロナウイルス感染症拡大前の仕事の状態
(調査対象者)【再掲】



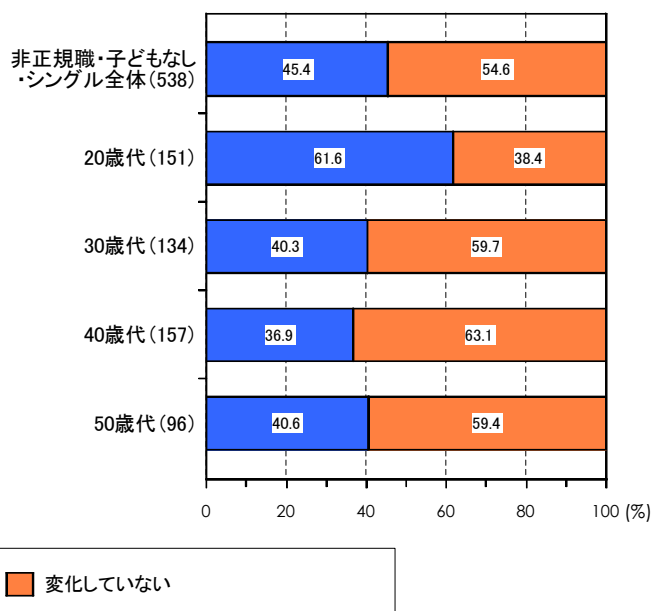
図表：新型コロナウイルス感染症拡大前の仕事の状態
(非正規職・子どもを持たない・シングル)



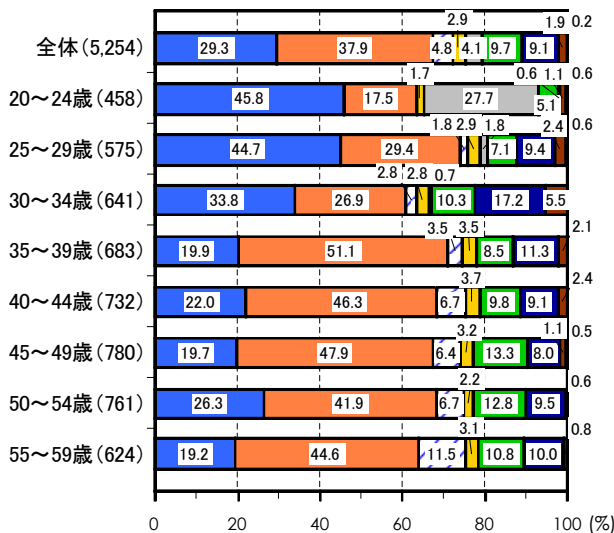
図表：新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化
(調査対象者)



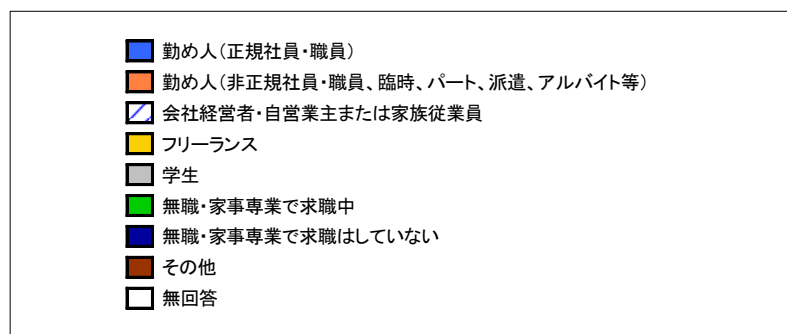
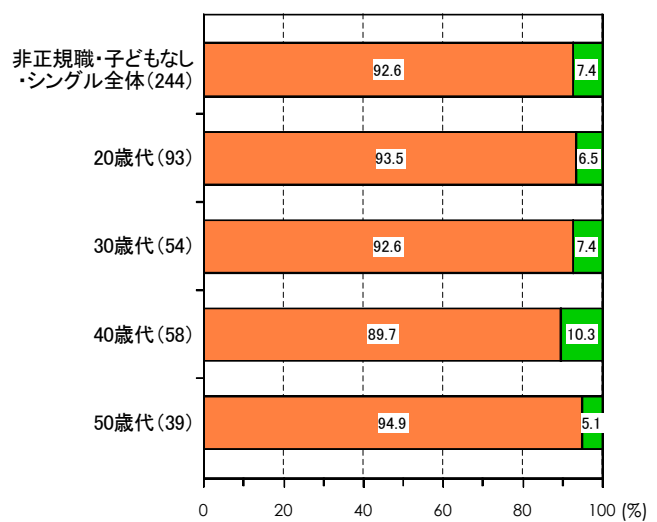
図表：新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化
(非正規職・子どもを持たない・シングル)



図表：変化した人の仕事の状態
(調査対象者)



図表：変化した人の仕事の状態
(非正規職・子どもを持たない・シングル)



4 非正規職に就いている理由

非正規になった理由は、「自分の都合に合わせて働けるから」「子育てを優先するため」「勤務時間や労働日数が少ないから」と続いている。

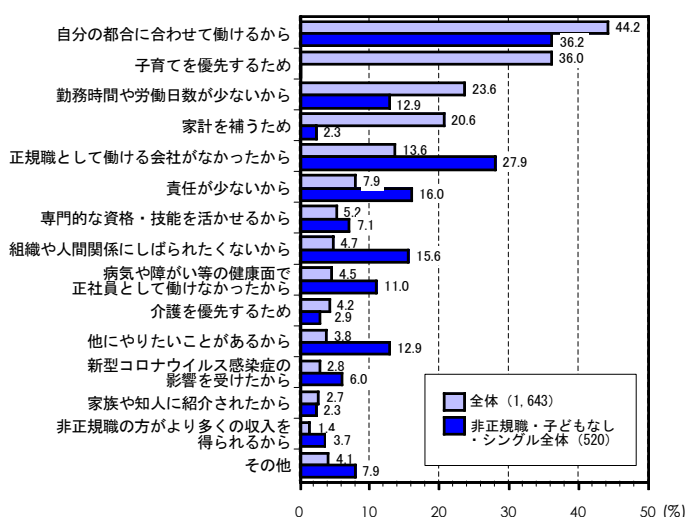
非正規継続の理由は、「家族の扶養の範囲内で働きたいから」「勤務条件に満足しているから」「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」と続いている。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

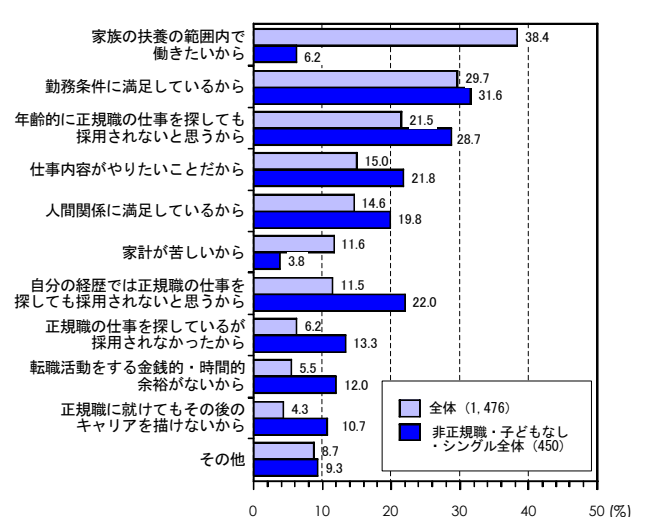
非正規になった理由は、「自分の都合に合わせて働けるから」とともに、「正規職として働ける会社がなかったから」も高くなっており、積極的に非正規職を選んでいるわけではないことがわかる。

非正規継続の理由は、「勤務条件に満足しているから」が32%と最も高い一方で、「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」も高くなっている。

図表：非正規になった理由



図表：非正規継続の理由



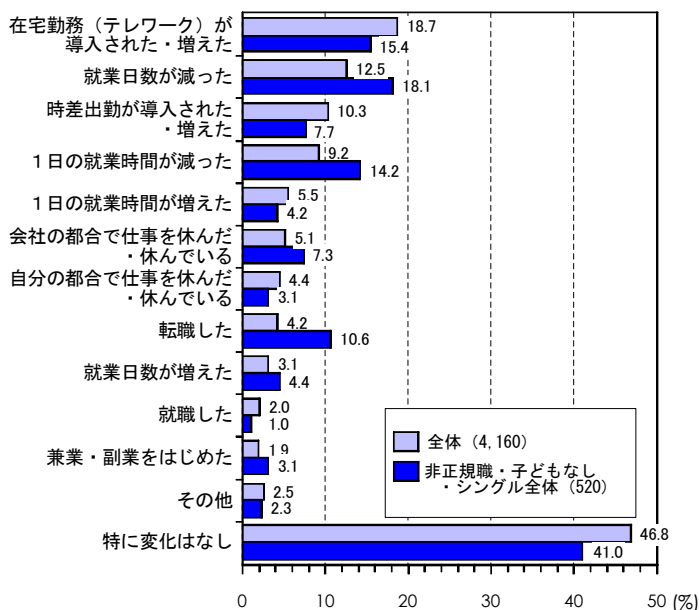
5 新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化

コロナで働き方の変化は、「在宅勤務(テレワーク)」が導入された・増えた」が19%、「就業日数が減った」13%、「時差出勤が導入された・増えた」10%と様々な働き方の変化がみられる。一方で、「特に変化はなし」が47%と最も高い。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「就業日数が減った」「1日の就業時間が減った」が高く、非正規職にとって収入に直結する変化が挙げられている。飲食サービス業に従事する人が多いことから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けていることがわかる。一方で、「特に変化なし」が41.0%を占める。

図表：新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化



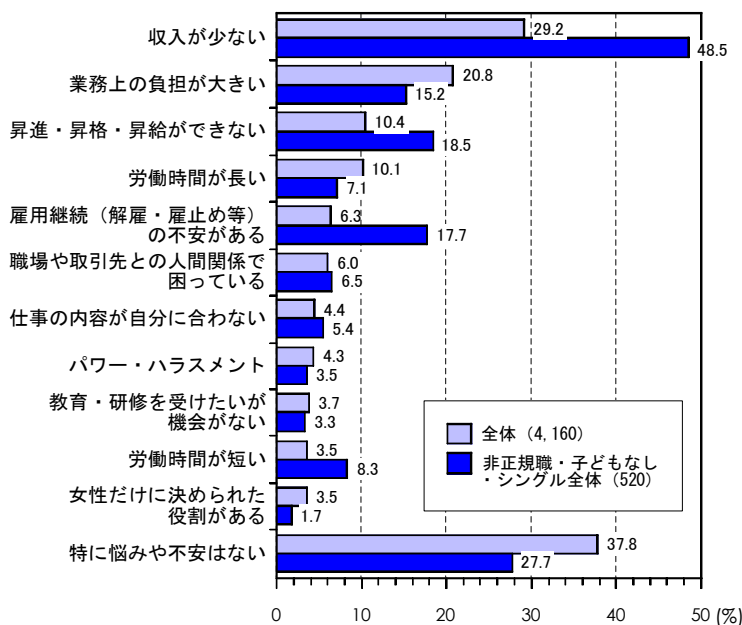
6 仕事に関して困っていること

仕事の悩みは、「収入が少ない」「業務上の負担が大きい」「昇進・昇格・昇給できない」と続いている。一方で「特に悩みや不安はない」が38%と最も高い。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「収入が少ない」が49%と全体と比較してもかなり高い。「昇進・昇格・昇給できない」「雇用継続の不安がある」といった非正規職ならではの悩みが高くなっている。

図表：仕事に関して困っていること



7 新型コロナウイルス感染症拡大による生活や健康への影響

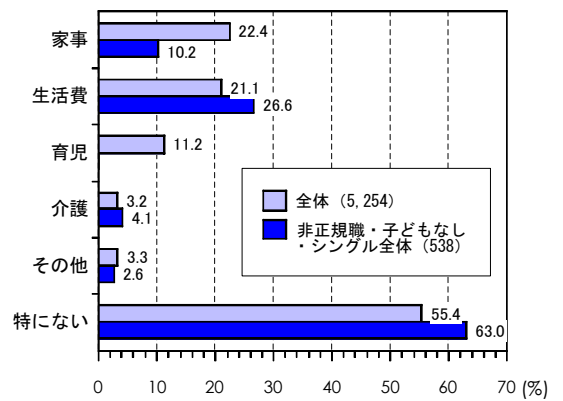
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの

「家事」22%、「生活費」21%、「育児」11%と続いている。一方「特にない」が55%と最も高い。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

非正規職・子どもなし・単身の回答者では「特にない」が63%。「生活費」27%と高い。

図表：新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの



(2) 新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化・マイナスの変化

プラスに感じられる項目は、「自分の時間が増えた」「人との交流の機会が減った」が高くなっている。「特にプラスに感じられることはない」が54%と半数を超えて最も高くなっている。

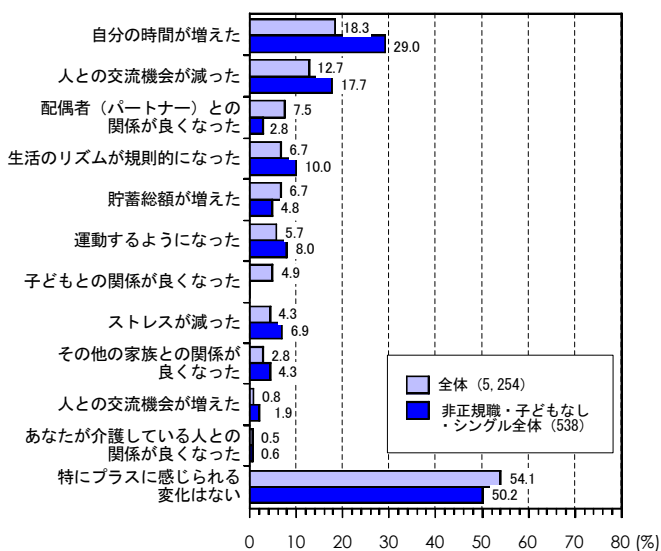
マイナスに感じられる項目は「旅行や外出の機会が減った」「人との交流の機会が減った」「ストレスが増えた」「運動不足になった」が高い。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

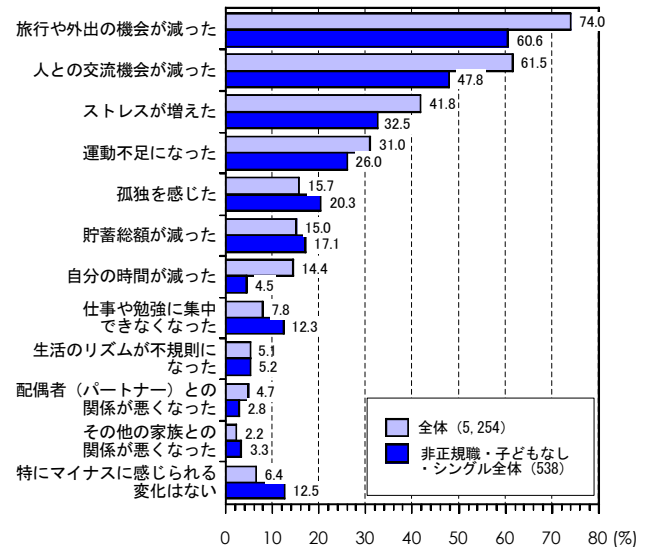
「特にプラスに感じられることはない」は50%、「自分の時間が増えた」等が高く、全体と比較しても高くなっている。

「旅行や外出の機会が減った」等上位項目は全体よりも低く、「特にマイナスに感じられる変化はない」が全体よりも高い。

図表：新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化



図表：新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化



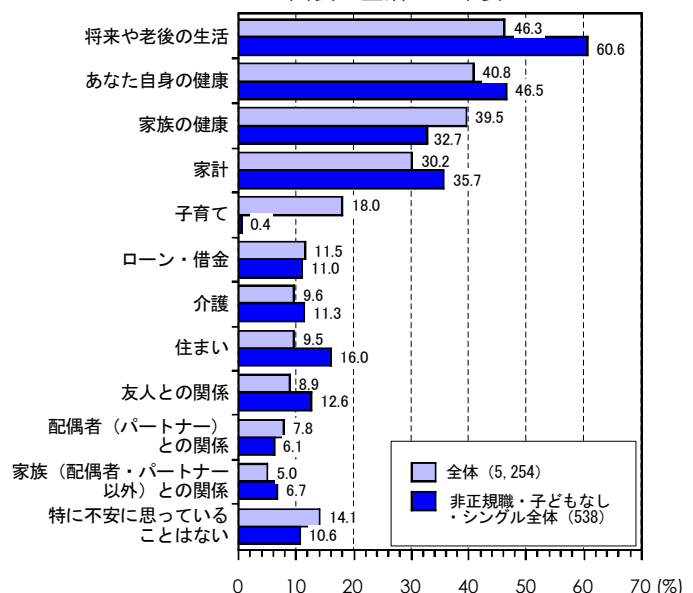
(3) 生活での不安

生活の不安は、「将来や老後の生活」「回答者自身の健康」「家族の健康」「家計」と続いている。一方、「特に不安に思っていることはない」は14%である。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「将来や老後の生活」「回答者自身の健康」「家計」「住まい」が全体よりも高い。

図表：生活での不安



8 今後の生活について

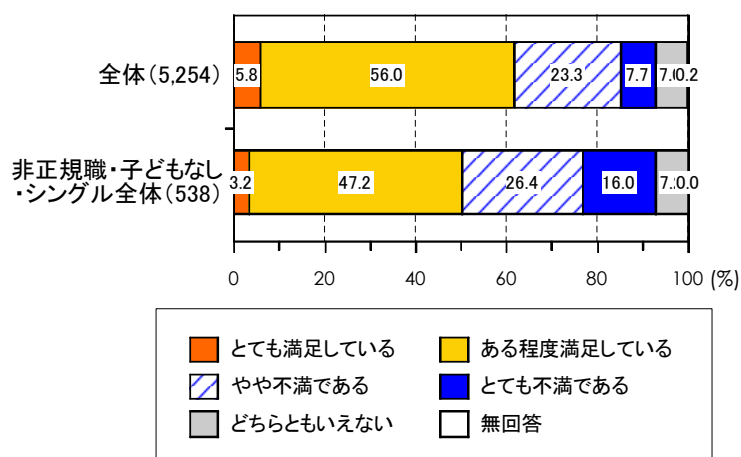
(1)生活の満足度

生活について、62%が“満足している”、31%が“不満である”と回答している。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

50%が“満足している”、42%が“不満である”と回答している。

図表：生活の満足度



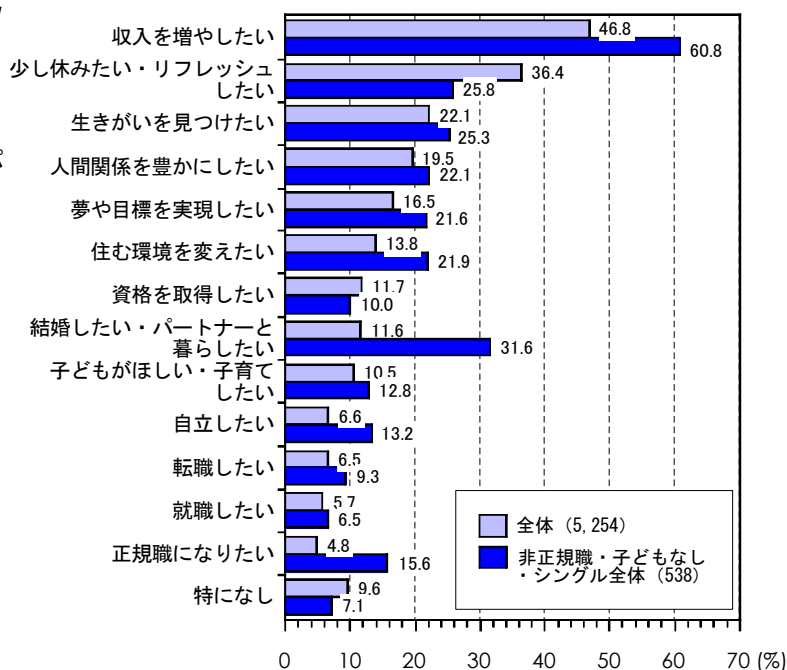
(2)今後の希望・目標

回答者が今、望んでいることを尋ねたところ、「収入を増やしたい」が 47%と最も高く、「少し休みたい・リフレッシュしたい」36%が続いている。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「収入を増やしたい」は 14 ポイント、「結婚したい・パートナーと暮らしたい」は 20 ポイントとかなり高い。

図表：今後の希望・目標



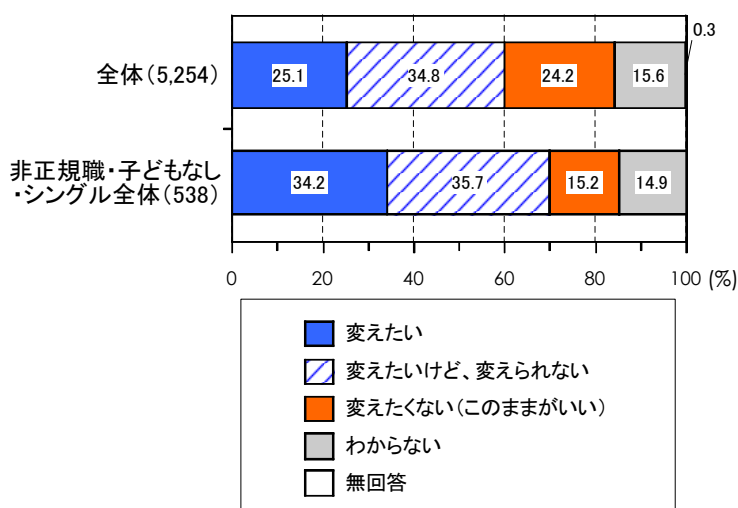
(3)生活の変化意向

“変えたい”という意識を持っている人が 60%を占めている。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

70%が“変えたい”という意識を持っている。

図表：生活の変化意向

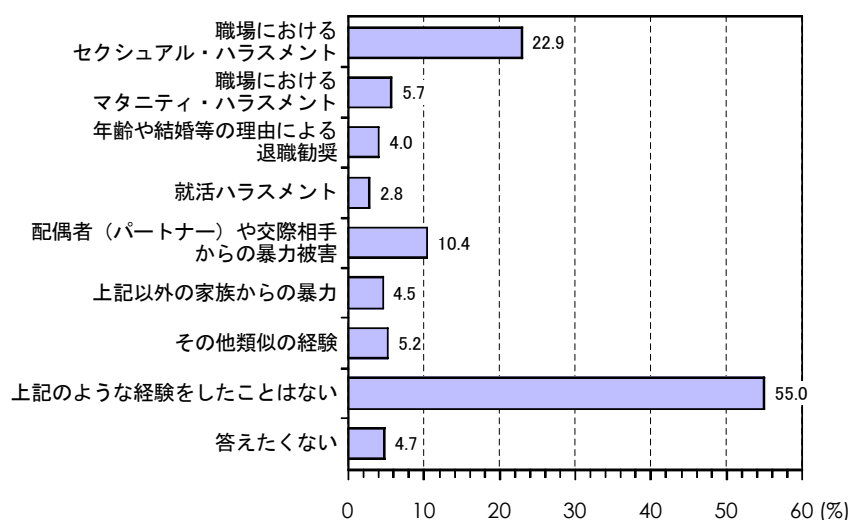


9 女性であるがゆえの困難の経験

(1) 女性であるがゆえの暴力被害経験

39%の人が何らかの暴力被害の経験がある。その内容をみると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が23%と最も高く、ついで「配偶者（パートナー）や交際相手からの暴力被害」10%が高い。

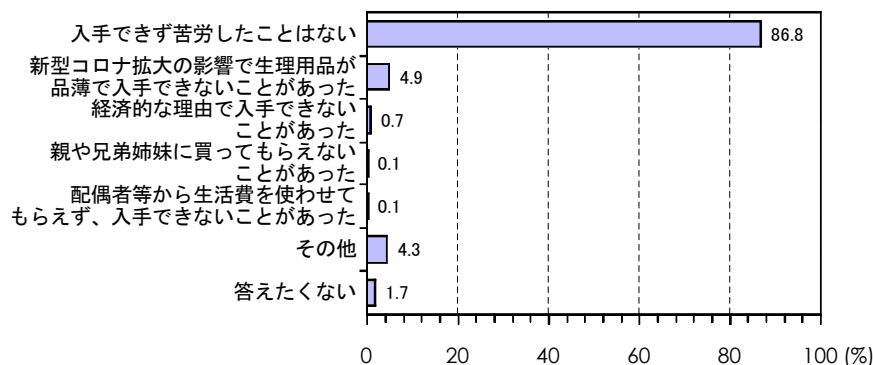
図表：女性であるがゆえの暴力被害経験



(2) 新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験

4.5%が生理用品の入手に苦労した経験を持っていると回答している。その内容は、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生理用品が品薄だったため入手できないことがあった」が5%である。

図表：新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験



10 女性に関する支援策等

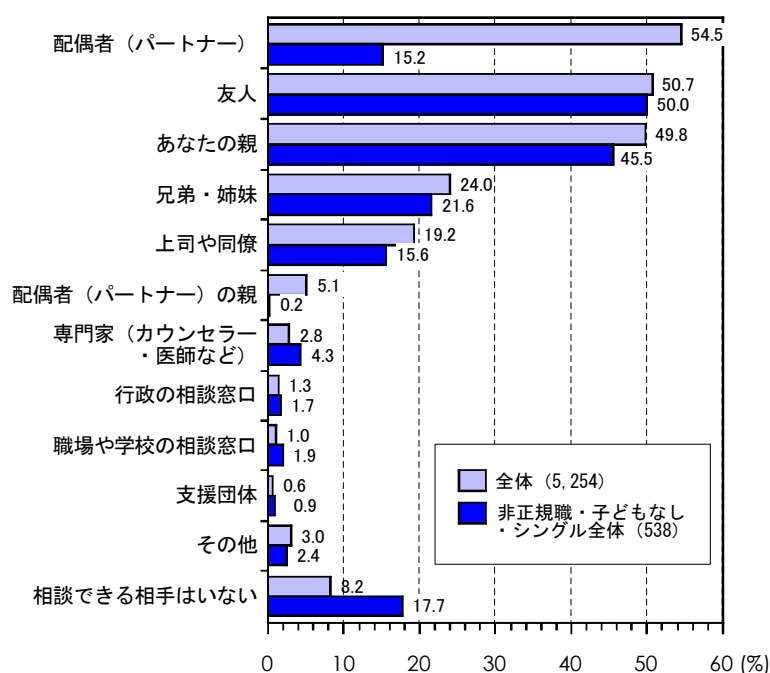
(1) 相談相手

相談相手は「配偶者（パートナー）」が55%、「友人」51%、「回答者の親」50%が高く、身近な人があげられている。専門の相談窓口などは「専門家」3%、「行政の相談窓口」1%、「支援団体」1%とかなり低い。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「友人」50.0%が最も高く、「回答者の親」45.5%、「兄弟・姉妹」21.6%が続いている。一方、「相談できる相手はいない」が18%と高い。

図表：相談相手



(2)利用したい女性の支援施策

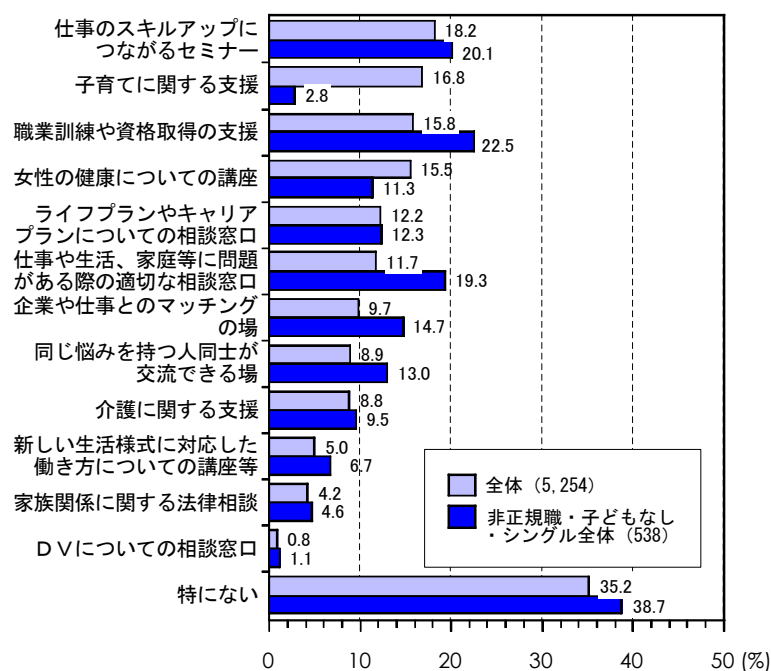
利用したい名古屋市の支援は、利用したいと回答した項目は、「仕事のスキルアップにつながるセミナー」「子育てに関する支援」「職業訓練や資格取得の支援」「女性の健康についての講座」といった仕事に関する、子育て、健康に関することへの期待が高い。

一方で「特になし」が35%と最も高く、利用を喚起する、情報を必要な人に提供することが重要である。

【非正規職・子どもを持たない・シングル】

「職業訓練や資格取得の支援」「仕事のスキルアップにつながるセミナー」「仕事や生活、家庭などに問題がある際の適切な相談窓口」と仕事に関する支援への期待が高い。

図表：利用したい女性の支援施策

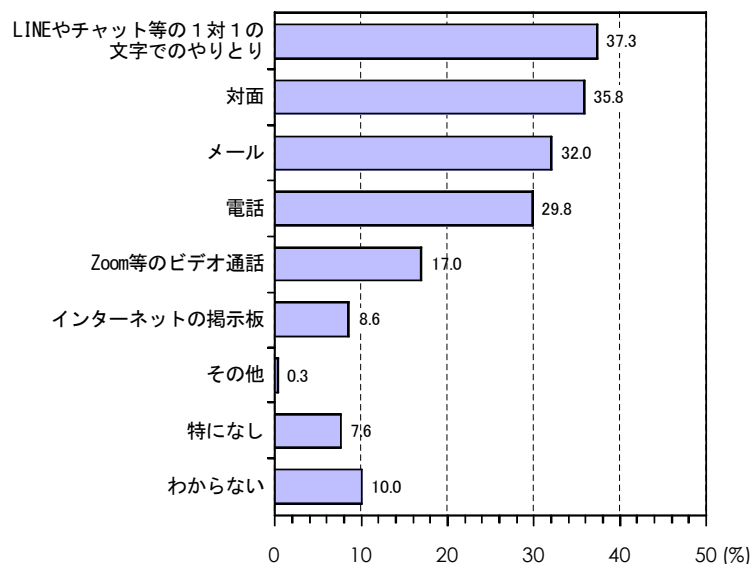


(3)相談方法・利用しやすい曜日・時間帯

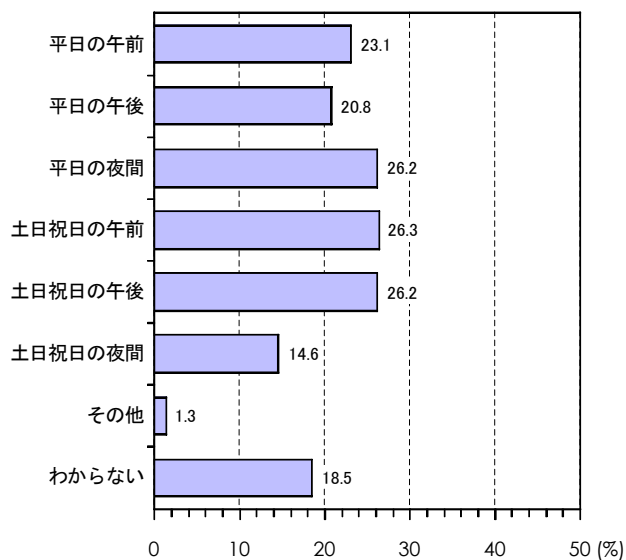
相談の方法は、「LINE やチャット等での1対1の文字のやりとり」「電話」「メール」が高くなっている。年齢により意向が異なり、若い世代はLINE やチャット、年配の世代は対面や電話とターゲットにより使い分けることも重要である。

(2)のような支援を利用しやすい日時は、「土日祝日の午前」「平日の夜間」「土日祝日の午後」の順に高い。

図表：相談方法



図表：利用しやすい時間帯



ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査結果報告書【概要版】

(令和4年2月)

発行：名古屋市

編集：名古屋市スポーツ市民局市民生活部男女平等参画推進室

〒450-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

TEL 052-972-2233